

来年度以降の課題と展開

今年度は、昨年度整理した課題を基本に、【課題 2】の中に含まれる「集落や市街地への出没対応状況」と多くの課題に共通する「保護管理推進のための人材配置」という 2 つの課題について取り上げ、各地域における情報の収集、検討を行った。来年度以降の展開としては、昨年度整理した課題を基に、今後「特定鳥獣保護管理作成のためのガイドライン」の見直しを見据え、優先度の高い課題を中心に検討する必要がある。しかし、課題が多岐に渡っていることから、来年度以降、テーマの絞り込みなどを行った上で、各課題について情報収集を進めつつ課題解決に向けた方向性の検討を行うこととしたい。

1. 来年度以降取り組む課題

【課題 2】 人身被害が深刻な問題であることから、

人間活動域への分布拡大防止（里山排除地域の設定等）対策が必要

- 1) 市街地など排除地域の設定

【課題 3】 大量出没が起こることを前提とした管理手法の検討が必要

- 1) 総捕獲数管理における、個体数水準レベルについて
- 2) 個体数調整に関する考え方の整理

【課題 4】 広域保護管理の取組が十分進んでいない地域がある

- 1) 広域保護管理における保護管理ユニットの変更の検討（参考資料 4）
- 2) 国・地方自治体の連携強化、メリット（コストの低下・効率化）の提示

【課題 6】 シカやイノシシの捕獲強化に伴う錯誤捕獲発生への対応

- 1) 錯誤捕獲の発生状況とその対応の把握